茨城新聞 2015年11月15日付

第一学院 連覇を狙う

全国高校サッカー県大会きょう決勝

県北対決

サッカーの第94回全国高校選手権県大会は15日午後1時から、カシマスタジアムで決勝を行い、初優勝を目指す明秀日立と、連覇を狙う第一学院の県北勢が対決する。

両校は6月の県高校総体準決勝で顔を合わせ、延長戦の末に明秀日立が3－2で競り勝った。

夏冬2冠を目指す明秀日立は、今大会いまだ無失点。アタッカー陣は高円宮杯U－18（18歳以下）県リーグ1部で得点ランキングトップ（12得点）のMF吉田知樹（3年）が中心となる。第一学院は試合を重ねるごとに終盤の勝負強さが増している。2戦連続で延長戦をものにし、勢いに乗っている。

優勝校は全国大会（12月30日～来年1月11日、埼玉スタジアムほか）に出場する。

観戦は有料で当日券は一般千円、中高生500円。小学生以下と日本サッカー協会登録選手証持参の中高生は無料。

（岡田旅平）

粘り強い守り

前回覇者の第一学院は2年連続4度目の決勝進出。双子のGK白将士、DF白将大主将を中心とした粘り強い守りから勝機を見いだす。

準々決勝の水戸啓明戦はPK戦勝利。準決勝の古河一戦は劣勢に立たされながらもしぶとく延長戦に持ち込み、セットプレーからMF杉野和矢（3年）がヘディングで決勝点を挙げた。杉野は高い身体能力を誇り、空中戦で強さを発揮する。

連覇の重圧に加え、県北勢対決、県高校総体準決勝で敗れた因縁もあり、白主将は「インターハイ予選で負けた借りを返さないといけない」と闘志を燃やす。

2月に就任した江前良治監督（42）は、「選手はプレッシャーを感じていると思うが、それを楽しめるよう前向きに臨みたい」と決戦を見据えた。

高い身体能力を誇る第一学院のMF杉野和矢

明秀日立 悲願初Vか

豊富な運動量

攻撃センスが光る明秀日立のMF吉田知樹

初の決勝進出を果たした明秀日立は、球際の激しさ、豊富な運動量が生命線だ。前線からの守備で相手に圧力をかけていく。エース吉田知樹（3年）はスピードに乗ったドリブルから シュート、パスを繰り出す得点源。自陣からのクリアボールを足元に収め、速攻の起点にもなる。

守りでは、カバーリング能力に優れるMF桜井太一、守備ラインを統率するDF石川慶人主将（ともに3年）が安定しており、萬場努監督（31）は「失点しないのが強み」と手応えを感じている様子だ。

準々決勝は前回準優勝の鹿島を破り、準決勝の鹿島学園戦では立ち上がりの先制点を守り切った。

初の頂点に向け石川主将は、「1対1の競り合いで上回り、失点せずに勝ちたい」と意気込んでいる。

【過去10年間の決勝記録】

年	回	優勝	スコア	準優勝
2005	84	鹿島学園	3－2	水戸短大付
06	85	鹿島学園	2－1	水戸商
07	86	水戸短大付	0－0（PK5－4）	鹿島学園
08	87	鹿島学園	0－0（PK5－3）	水戸商
09	88	鹿島	1－1（PK5－4）	常総学院
10	89	鹿島学園	2－0	ウィザス
11	90	鹿島学園	2－2（PK5－3）	ウィザス
12	91	鹿島学園	1－0	桜和
13	92	水戸啓明	1－1（PK7－6）	鹿島学園
14	93	第一学院	2－1	鹿島

※水戸短大付は現水戸啓明、ウィザスは現第一学院

【第一学院の足取り】

3回戦	〇2－1	境
準々決勝	〇1－1 PK5－3	水戸啓明
準決勝	〇2－1	古河一

【明秀日立の足取り】

3回戦	〇7－0	勝田工
準々決勝	〇1－0	鹿島
準決勝	〇1－0	鹿島学園